

## 授業参観アンケート回答結果について

平成23年11月7日(月)から11月18日(金)の期間に行いました授業公開に対するアンケート調査にご協力いただき、大変有難うございました。お蔭様で多数の教員から回答が寄せられましたので、授業を参観した感想や意見について学内に向けて公開いたします。工学部教育企画委員会FD部会では、これらの感想や意見を参考に今後の授業公開のあり方やアンケートの調査方法について審議することにしておりますので、引き続きご協力いただきたくお願いいたします。

### 【アンケート(b) の質問内容】

質問1 授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

質問2 授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

### 【質問1 に対する全回答】

(機械工学科)

- 今回の授業を参観して、自分の授業に参考になると感じた点、改善した方がよいと感じた点については以下の通りです。
  - ・話し方が丁寧でゆっくりであること。
  - ・授業で大事なことは板書です、きれいな楷書で黒板に書くこと。
  - ・見やすく、情報量が適度なプレゼンテーションを作成すること。
- 大人数の講義では、およそ半分の集中できていない学生をいかに前に目を向けさせるかが重要であるとつくづく感じました。
- ・資料配布だけでなくホームページ等の授業支援ツールを積極的に活用し、受講生が授業時間外においても自習できる仕組みを作ることが重要であると感じた。
  - ・複雑なグラフについてはパワーポイントに切り替えている授業があった。板書とプロジェクタの併用により学生の理解度が増すと思った。
  - ・講義時の説明の仕方やスピードについて、学生が板書を写しながらでも授業についていけるように改善したい。
- 教室の後方 1/3 に着席している学生の集中度が低い。重要事項の前に黒板への注目を促すなどの工夫を取り入れたい。
- 講義の開始前から講義室に来て準備をすべきであると感じました。
- 常に最新の情報をとりいれ、授業に生かして行ければ良いと感じました。
- 教科書の内容を平均的な学生の理解度にてできるだけ合わせて説明するように心掛けたいと思う。具体的には板書だけでなくパワーポイントや配付資料などを併用し、教科書の内容を視覚的に補強したり板書のみで終始することのないようにしたりと、学生が飽きないように工夫していきたい。
- パワーポイントを適度に用いることで板書よりも効果的であると感じたので、取り入れたい。
- ・筆圧はそれほど強くなくても、文字はしっかり視認でき、また、黒板を汚さずにすむことがわかった。
  - ・パワーポイントは、色鮮やかであり、現象を説明したいときなどには、うまく利用できると思った。

その際には、配布資料としてスライドを印刷しておくことで、教員の説明に学生を集中させることが可能であると思った。ただし、100 人規模の授業で毎回、カラーのパワーポイント資料を全員分印刷するのは限界があるように思った。

・上付き・下付きの添え字は、大きく書いたほうが見やすく、また、ある程度大きく書いたとしても、添え字でない文字と誤認することはないと思った。

- 一覧表やグラフの見方まで丁寧に説明していた点は参考になりました。
- 今回は受賞された先生方の授業参観をしました。私の授業のやり方とは全く違っており、大変参考になりました。特に、授業の進め方、説明がゆっくりで丁寧であったのでわかりやすかった。私の授業でも説明を丁寧にしよう改善していきたいと思います。
- 参観した講義の板書は文字が見やすくはっきりと書かれており、自分の講義の板書に改善の余地があると感じた。限られた時間内で多くの情報を伝えるよりも、大切な情報をゆっくりとした口調で説明することが重要であると感じた。
- ・講義の最初に、当日の講義の内容の概要を分かりやすく説明する。  
・板書に際して、  
(1)板書する文字を分かりやすく書く。  
(2)3連の黒板の左から順に、書き順の番号を記入しながら記述していく。  
(3)黒板1枚当りの説明は簡潔として、多くの情報を含めない。  
・あまり多くの内容を説明せず、説明すべき事項を絞って、丁寧に説明する。  
・授業中、何度も、説明した内容について学生の理解度を確認する。
- 特にありませんが、参観した授業については大変わかりやすい授業だと思いました。

#### (電気電子システム工学科)

- 今回参観した授業は、工夫したらもっとわかりやすくなる、改善すべき点が数多くあると思わされるものであった。裏を返せば、自分の授業にもこのような改善すべき点があるはずであり、第三者的に見直す必要性があることを強く感じた。
- 授業アンケートで、「板書が分かり難い」という意見があり、今回は主に板書のとり方などを中心に参観した。基本的な点は、参観した講義と変わらないが、色分け方法などが、どこが重要なのかわかりやすくする工夫がさらに必要なのかと感じた。

#### (情報システム工学科)

- パワーポイントのスライドをおもに使っているが、これだとペースが速くなりがちなので、板書との適切な組合せを考えたい。
- 板書をきれいにしたい。
- 情報システム工学科ということもありますが、講義に各学生の自分のノート PC を持ってこさせて、

講義内容の理解に上手く援用できると良いと感じました。ノート PC 持参を必須として、PC 利用を前提とした講義内容ではなく、持ってきた人は、さらに授業内容が良く分かるような工夫をできれば良いと感じました。

- 学生が寝ていないかを常にチェックすることが大事だと感じました。  
黒板の文字は大きい方が見やすいと感じました。  
学生の側に立って学生の様子を眺めていると、学生のレベルやモチベーションに差があるように見受けられました。どの学生のレベルにターゲットを絞るかは非常に難しい問題だと思います。  
授業の進度は遅い方が良いと感じました。  
学生にとって分かり易い授業が重要だと思いました。

#### (応用化学科)

- 学生を巻き込んでいる様子を見て、参考にしたいと思いました。
- 学生の理解度を高めるための努力と工夫の必要性を感じた。教員と学生間で一方的ではなく、双方向のやり取りを細かく行うことで、学生が意欲的に勉強できるようになるのではないかと考えた。
- ・コミュニケーション  
授業が遅れないよう意識過剰になると、この点がおろそかになってしまう。理解力を確認しながら講義を進めるという点において、役立つと思うので改善する。  
・板書  
講義内容を理解する上で、受講生は板書への依存度がかかなり高いと再認識した。今後の板書方法の改善に役立てる。
- すべてを網羅的に講義するのではなく、学生が最低限修得すべきポイントだけを明確に示し、その後より詳細な説明を追加していく方が、最終的な理解という点ではそのレベルを維持しやすいのではと感じた。
- マイクの利用を再検討しようと思った。(自分の現在の授業形式は、声を大きくして板書を中心としたものである。)  
出席者が多い授業の難しさを改めて認識した。学生を授業に参加させる方法を検討する必要がある。

#### (機能材料工学科)

- ・時間に余裕があれば、動画の教材を作成して使用してみたいと思った。  
・新興の学問分野ではあるが、テキストの完成は必要と改めて感じた。同時にこの分野の教員の力量や負担についても十分考慮する必要があることを再認識した。
- きちんとした授業の準備をする。
- 板書する文字の大きさを大きくしようと思った。

- 黒板やホワイトボードの使い方、試験をした場合の関連情報の開示方法、授業中の学生との対話の仕方等、非常に参考になる部分がありました。特に講義では一方通行になりがちが多く、双方向のコミュニケーションができるような方策を考えたいと思いました。
- ・板書とスライドをうまく利用して、導入と学生の興味を持続させる方法が望ましいと思いました。  
・学生に黒板で答えさせたりして、よりコミュニケーションをとることが重要と思います。  
・講義の流れがよく検討されていることが重要と改めて思います。
- 通常、PPT を利用して進めがちであるが、板書もしながらゆっくり思考する時間を取らせながら進めるべきではないかと思いました。
- 学生参加型授業で、楽しんで積極的に参加している様が見受けられ、そのような意欲を湧かせる授業方法が大変参考になった。
- ・板書の大きさ

実は、以前にも自分自身の授業で、板書の文字の小ささを指摘されたことがあった。それ以来気をつけていたつもりだが、参観した授業での板書の大きさが明らかに大きくて見易く、より改善の必要があると感じた。

・板書の整然さ

教室によってはそもそも大きな文字での板書を、バランス良く行うことが困難な構造のホワイトボードがある(工-50 等)。教員によってはそれを事前に見越し、文字や行数のバランスを計算して授業を行う方もおり、経験の必要さを実感した。

・受講姿勢改善の喚起

学生は入学試験に合格し、授業料を払って大学に来るが、学費の安い国立大学法人はそれだけでは運営できず、国費が投入されている。従って、国民の血税によって学ぶ学生は、学ぶ権利と共に義務も有しており、自ら授業に来るのは当たり前・・・が正論であるが、現在は、出席を取る・板書から試験を出す、等と言って、合格(単位取得)という人參を目の前にぶら下げないと、学習への真剣み・集中力が高まらないところがある。ある種、現代の学生に合わせ、工夫が必要だと感じた。

(建設工学科)

- 演習講義であったことから、教員による説明と、学生の自主的な解答のバランスの配慮について、教員は意識して授業を行っていた。学生の主体的な学習のためには、通常の講義においても演習科目で行われるような学生参加の様な仕組みを作成できれば、一方通行的な授業における学生の受身的な姿勢ではなく、より講義が有効になるのではないかと感じられました。
- 自身の講義では、授業が進むにつれて講義内容についていけない学生が出てくることが多い。講義の最初に前回講義で課した小テストやレポートの説明に十分時間を割きつつも、当日講義内容

をテンポよく進めているところは是非参考にしたい。

- 授業開始時はどうしてもザワつくが、それを抑制するのではなく講義をしゆくしゆく始めることにより静めるという方法は、自信でも使ってみようと思う。
- 講義の説明を対話調を基本としており、自信の講義の中でも取り入れてみたい。

(環境共生学科)

- 授業参観することは、講義改善のために役立つことが多いです。特に、板書とPPT スライドを併用しながら丁寧に授業を進めていくことで、学生諸君の理解を向上させることができると思います。
- 特に、講義ごとに、要点を明確化して、学生諸君の理解を向上させていきたいと思います。また小テストの実施を行いたいと思います。
- 特に、小テストの実施を行いたいと思います。ただ、講義環境の問題点として、部屋後方の学生の私語、携帯使用などがひどく目立ちました。自分の講義時は、なるだけ、このような事態にならないよう、学生のモラルを向上させる教育もしたいと思います。
- ・学生の表情や行動に十分な配慮を行い、必要な説明を行っていききたい。  
・見やすい板書や学生の立場に立った板書の方法について考えていきたい。  
・分かりやすい配付資料の作成に努めるだけでなく、資料の説明に関しても、どの部分を説明しているのかなど、板書と資料の位置関係明確にし、学生が理解しやすいような解説を心がけていきたい。  
・聴講人数に応じて講義形式等を検討する必要性を感じた。

## 【質問2 に対する全回答】

(機械工学科)

- 今回の授業参観はいい勉強になりました。
- この形式でよろしいかと思えます。
- ・ベテランの先生方の講義では、学生の理解度向上のために工夫している点が多く、自分が担当している講義でも積極的に取り入れたい。  
・他の先生方の授業を拝見することで、自分が担当している授業の改善点が明確になった。  
・参観者用の椅子を用意したほうが良いと感じた。特に、狭い講義室において参観者が教室の後方に立って参観すると、講義がしづらくなるのではと思う。
- ・他の教員の授業を参観することにより、自分の講義を見直す良いきっかけになると思いました。  
・後期の授業だけが公開されているのでしょうか？前期と後期を交互に実施することも検討してはどうかと思いました。
- 授業参観とは直接関係ありませんが、12 番教室の中程にもスピーカーを設置すると後ろにいても聞き取りやすいと思いました。
- 自分で気づかないことに気づいたり、今後の参考にしたいところがありました、今後も続けてゆくことが望ましいです。
- 普段、他の先生方の講義を拝見することはほとんどないので、講義を行う技術に関する新たな発見や参考にすべき点などを学ぶことができる有効な制度だと思う。特に経験豊かな先生の講義は参考になる点が多いと感じた。
- 自分の授業もあり、多くの授業を見ることができません。是非、来年も継続して下さい。
- 授業参観を実際に行ってみて、いろいろとわかることがあった。特に、黒板の書き方や説明の口調などは参考になった。今回、自分の所属する学科と他の学科の両方の講義に参加したが、受講する学生数や講義内容によって、適切とされる授業形式は異なるのではないかということを感じた。これは、自分のスタイルに固執せず、受講者数や内容によって、授業スタイルを臨機応変に変える必要があることを示しており、自分にとってはよい勉強となった。
- 自分の授業の進め方と異なる授業を参観すると、良い部分を自分の授業に取り込めると感じました。
- 自分が行っている講義に関連する授業を参観することで、自らの講義内容に反映すべきものが得られると思う。
- 教員による授業参観はそれぞれの授業内容を確認するとともに、授業の仕方を理解する上で意味あるものと思われる。同時に、授業中の学生の受講態度についても確認することができた。例えば、定刻を大幅に過ぎて入室する学生が相当数いたり、テキストを閉じたまま受講する学生がいるなど、が観察された。そこで、学生の受講状況の改善に寄与するために、学生の受講態度や授業への集中度に対するアンケート調査(教員向け、及び学生向け)も平行して行う必要があると思われる。
- 授業参観する教員が少ないのが気になりますがもっと気軽に習慣的に行うようにすればよいと思います。単に講師の講演を聞くようなシンポジウムでなく各自の考えていること、難しいと感じることなど気軽に話せる懇談会があればいいと思います。

(電気電子システム工学科)

- 参観した授業はどちらも、参観していたのが私一人であったので、無記名で書いても特定されてしまうという問題がある。(今回のコメントを授業担当の先生にお渡しすることは全く構いません。)
- 自分が担当している講義と関係深い他の講義の状況などを実際に見ることができるので、今後も定期的に(内諾があれば、このようなシステムを利用しなくとも参観はできますが)あることを望む。また、演習などを実際に参観することで、学生の理解度などの雰囲気も分かり、自分の講義の参考にもなった。

(情報システム工学科)

- どの授業を参観してもよいというのは、普段通りの授業を見るという点ではよいが、個々の授業の参観者が少なくなり、参観者は自由な意見を言いにくいし、授業をする方も多くの意見を得られない。期間を1週間にして、担当教員を隔年にすれば、密度は4倍になるが、その程度にしたほうがよいかもしれない。

(応用化学科)

- 授業参観も一巡したので、限りある時間を他のことに使うことを考えてもよいのではないのでしょうか。
- 今回ベストレクチャー賞を受賞された先生の授業を参観させて頂き、参考にしたい点がたくさんありました。ただもう少し日程に余裕があるとよいです。
- 毎年、見学する必要性は感じないが、授業の参考になるので、隔年程度では行った方がよいと思う。優秀な講義を聴き、参考にする機会をつくりたいので、これまでベストレクチャー賞を取った先生の講義日程をリストアップして授業参観前に通達してもらえるとありがたい。
- 今回のような、講義を指定しない形は良いと思います。
- 講義の構成を考える上で、対象の異なる講義を見ることは非常に参考になりました。
- 本年度は非常勤講師による講義を含む全ての講義が対象にされたことで、参観可能な講義の数が増え、参観したい講義を選べるなどの利点があったと思います。
- 授業の様子をモニターで見られればなお良い。参観しやすい。以前から指摘があるところですが、参観者が誰か分かるのは互いに気まずい。また、学生も気が散るのではないかとと思われる。教員から賛同が得られるか別であるが、FDのためには予算を要求して、工学部の全教室に設置すると良いのでは。

(機能材料工学科)

- 他の教員の講義方式を参考にできる良いシステムである。
- もう少し参観できる日にちが長い方がいろいろな授業が見学できて参考になる。
- 今回はベストレクチャー賞を受賞された先生方の講義を拝聴しましたが、やはり受講者から評価されるのはそれなりの理由があるのだと感じました。そのような先生方の講義を聴けるのは自分にとっても有意義ですし、得られた情報は積極的に活用していきたいと思います。
- 教え方のうまい先生の講義を拝見すると本当にためになります。
- 機能材料工学科がよく利用する 71 番教室は、プロジェクターを使うと板書ができない構造になっており、上記のような講義がしにくい。機会があれば、そのような変更があればと思います。(授業参観をすると、このようなことを考える機会が生まれます)
- 大変参考になることが多かったが、個人的には、授業参観実施は慎重に考え直して欲しいと考えている。本来、大学での授業は、担当教員の“聖域”であるべきである。大学教員が teacher でなく、研究の professor であることを忘れてはならない。大学の講義において、教育の視点で必要なのは、個々の授業を観覧して、改善を図ることではなく、事前に授業相互間の内容の打ち合わせやアドミッション・ポリシーを教員同士で打ち合わせることである。また、研究のプロフェッショナルとして、各教員がこれまで学道を追求することで積み上げてきた知見に基づく、その教員でしかできない授業、埼玉大学でしか受けられない授業を提供するのが理想であって、他教員の意見に迎合するのは間違っている。これは高等学校までの初等教育で行うことである。授業の進め方の向上は個々の教員の自己研連によってなされるべきであって、これが授業参観により受けた何かの指摘によってその都度変化しては、各教員の個性や“イロ”に基づく、professionalism が育たない。もし、オープンクラスがそれを阻害する方向に行くのなら、自粛が好ましい。勿論、紳士的な態度と、助言で全てそれが成り立っているのなら問題はないが、学生や教員の迎合にならず、優れた点を評価する制度になればいいと思っている。

#### (建設工学科)

- 良いことだと思います。
- 参加の確認もとっていないため、授業参観に参加していない教員が多く、実施のやり方に問題はないだろうか。毎年固定のメンバー間で意見交換をしてるだけになりつつあると感じられる。客観的な様々な意見を頂くことを目的としているので、より多くの教員が参加するように工夫すべきであらう。
- 大変有意義である。
- 自身の講義の改善に役に立つ。(どれくらいの声でどれくらい届くのか、文字の大きさはどれくらいが必要かなどが体験できる。)

(環境共生学科)

- 他の教員の方がどのように講義を進めていらっしゃるのかは、大変参考になりました。また遅刻の学生に対して個別な指導も行いたいと思います。
- 今年度から講義をさせていただく上で、今回の授業参観は大変参考になりました。
- 今後も続けていただきたく思います。